長野県不登校児童生徒支援ガイド「はばたき」

－自分らしく学び、自分らしく生きるために－

長野県教育委員会事務局 心の支援課



令和３年　vol.1

令和４年　vol.2

令和６年　vol.3

はばたき

不登校児童生徒の

学びのサポートガイド



長野県 教育委員会事務局 心の支援課

長野県 県民文化部こども若者局 次世代サポート課

不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会

座長：信州大学教職基盤構築センター

荒井　英治郎　准教授

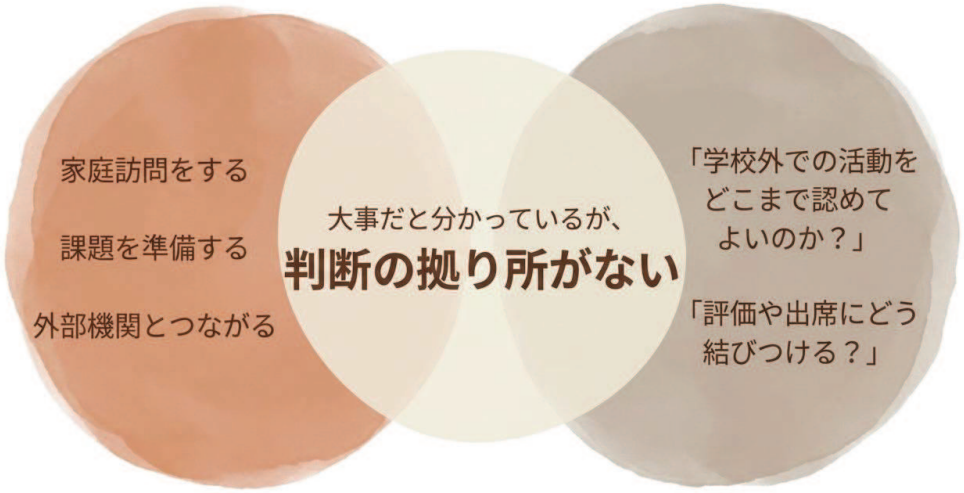
構成員：令和3年度～

長野県市町村教育委員会連絡協議会会長
信州フリースクール居場所等運営者連絡協議会代表
市町村教育委員会 教育長
市町村教育委員会 指導主事
民間支援施設（フリースクール）運営者
不登校児童生徒保護者
不登校経験者　　ほか



“

「学校に来られていない子どもは、
学んでいないのでしょうか。」



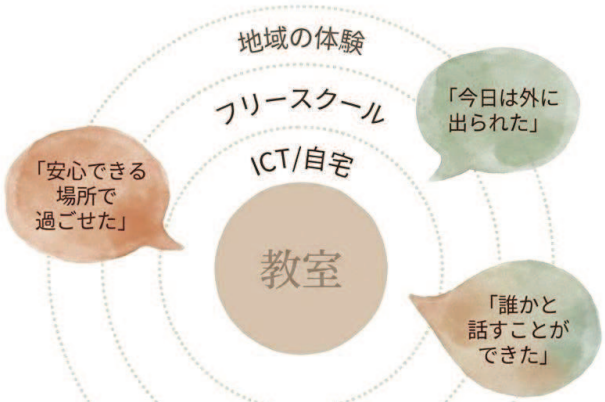
国の動向が示した「大きな転換点」（平成29年・令和元年通知）

過去	現在
場所：学校中心	場所：**多様な学びの場の容認**
目標：登校結果主義	目標：**社会的自立**を目指す
体制：学校単独支援	体制：**外部機関との連携・ネットワーク**

「どこで学ぶか」から、「その子が学び続けているか」が問われる時代へ。

不登校は問題行動ではなく、子どもからのSOS。

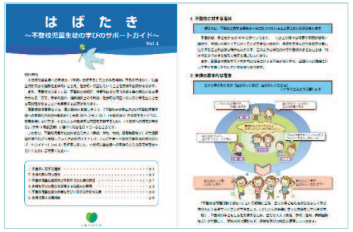
では、「その子どもの学びをどう捉えるのか」



学びは教室の中だけで起きているものではない。
これもすべて「学びの過程」。

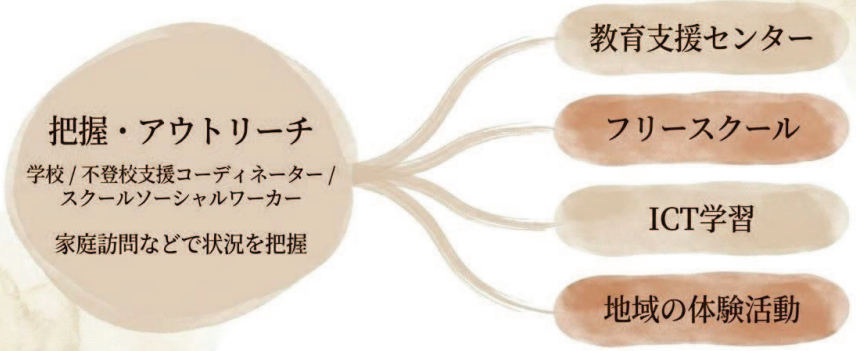
はばたきvol.1の理念

「自分らしく学び、自分らしく生きる」



子ども一人一人の学びを保障し、それを社会的に認めること。

理念を“実際に動く仕組み”に



「誰が」「どうやって」実現するかを具体的に例示。



現場に残された、最も高く、答えのない壁。

はばたきvol.2　評価の意味を捉え直す



「子どもが自らの学びを振り返り、
次の学びにつなげるためのもの」

学習評価を可能にする４つの条件とプロセス

1. 把握
学習内容や本人の振り返りを丁寧に記録・蓄積する。

2. 関連付け
教科の目標や学習指導要領と照らし、学校教育として意味付ける。

3. 連携
保護者や支援機関と情報共有し、評価の客観性・信頼性を確保する。

4. 組織的判断
個人の判断に委ねず、管理職を含めた校内で共有・協議し決定する。

特別な条件が揃った理想論ではなく、

「程度の差はあっても実現可能な取組を示すこと」

小さな第一歩

一部の先進的な理想モデル

- 県内の学校、市町村、民間施設における実際の実践を収集・整理。
- 「すべての学校で、今日から始められること」を重視。

国の制度・政策
（COCOLOプラン / 令和6年通知）

「要件」の提示

成績評価の判断基準が明確化され、制度として運用可能な段階へ。

長野県ガイド
（はばたき Vol.2）

「実務」の提示

評価を実際に成立させるための、把握・連携・体制づくりの具体的手法。

国の整備を、“はばたき”が導く。

統一的なマニュアルではなく、「対話のためのツール」

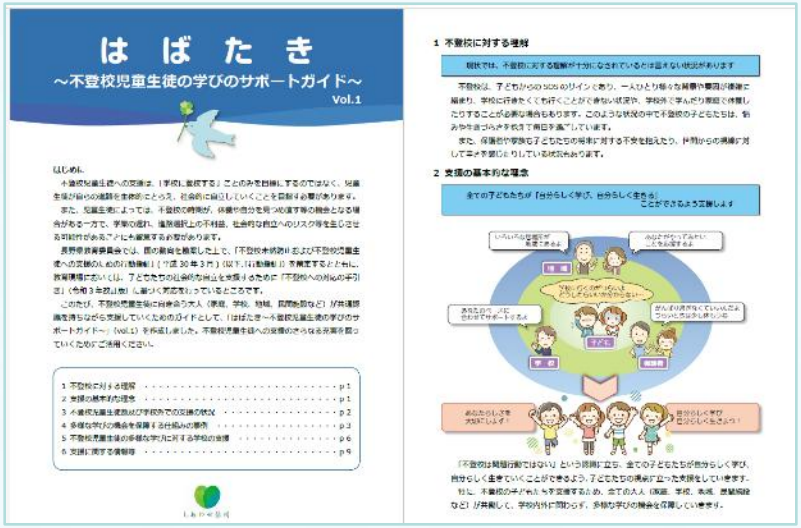


保護者や関係機関に対し、「なぜこの対応を行うのか」を説明する根拠となる共通基盤。その子にとって何が最善かをともに探る。

R8.6.25 文部科学省生徒指導担当者連絡会 長野県実践発表資料

不登校児童生徒支援を理解する:『はばたきvol.1』

「はばたき」が目指す、これからの不登校支援
― 自分らしく学び、自分らしく生きるために ―



支援の根幹:新しい「学び」の捉え方

不登校は「問題行動」ではなく「SOS」



一人ひとり異なる背景を理解し、休養や自分を見つめなおす時間を尊重します。

ゴールは「登校」ではなく「社会的自立」



どこで学ぶ以上に、その子が「学び続け、自分らしく生きること」を最優先します。

学校外の活動も「学び」として認定



ICT学習や民間施設での活動を、出席扱いや評価に繋げ、子どもの自信を育みます。

実践ガイド
「はばたき」と支援の仕組み
不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会(有識者懇談会)



多職種にの有識者による議論から誕生

学識経験者　教育委員会
民間支援機関　当事者

学校、福祉、心理、民間団体などの有識者が、現場の判断基準を検討し作成。



不登校支援コーディネーターが学びを繋ぐ

家庭訪問やアウトリーチ支援を通じ、一人ひとりに最適な居場所や学習環境を提供。



「自分らしく学び、自分らしく生きる」

全ての大人が協同し、子どもの視点に立った、多様な学びの機会を保障。

長野県内における不登校児童生徒の現状と支援の広がり
(令和2年度)



不登校児童生徒1,000人あたりの比率



教育支援センター
(中間教室)
通所者:563人



フリースクール等
民間施設
利用者:255人

R8.6.25 文部科学省生徒指導担当者連絡会 長野県実践発表資料

不登校児童生徒の学びを支える:『はばたきvol.2』



長野県が作成した「はばたきvol.2」は、不登校児童生徒の「多様な学び」に焦点を当てたサポートガイドです。
有識者懇談会での議論を経て、評価を「子どもの成長を支える手段」へと、本質的な意義を尊重し、学校外での学びを適切に評価するための具体的な実務プロセスを提示しています。





はばたき「vol.2」が掲げる基本的理念



不登校は「問題行動」ではない

全ての子どもが「自分らしく学び、自分らしく生きる」ための多様な機会を保障。



評価は「振り返り」と次への「ステップ」

評価は目的ではなく、子どもの学習意欲や自己肯定感を高めるための手段。



有識者懇談会による知見の集約

現場の実践事例に基づき、実現可能な支援と評価の在り方を提案。

学習評価を実現させるため実務事例（令和4年度時点での国の方向性に準じて）



学習状況の「把握」と「記録」

多様な場での活動を丁寧に記録し、評価の前提となる情報を蓄積します。



関係機関との「連携」と「共有」

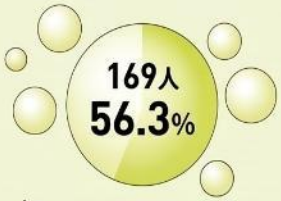
家庭、学校、フリースクール等で情報を共有し、評価の客観性を担保します。



教育課程との「関連付け」

学校外の学びが教科目標等にどう適合するかを整理し、学校として意味付けます。

長野県内における学校外の学びに対する出席扱いの現状（令和3年度）



民間施設（フリースクール等）利用



自宅でのICT等を活用した学習



教育支援センター（中間教室）通室

長野県 メタバースを活用した不登校支援事業の現状と全体像

事業の目的：孤立した児童生徒の「新たな居場所」から「地域の対面支援」への架け橋

Stage 1

対象と課題



既存の支援（学校・教育支援センター等）に繋がりにくい、出席日数0日・極めて少ない不登校児童生徒（公立小・中・義務教育学校）

Stage 2

新たな居場所



安心できるオンライン空間で、自尊感情や自己肯定感を育む支援。アバターを通じた人間関係づくりと相談の機会を提供。

Stage 3

社会的自立・対面支援へ



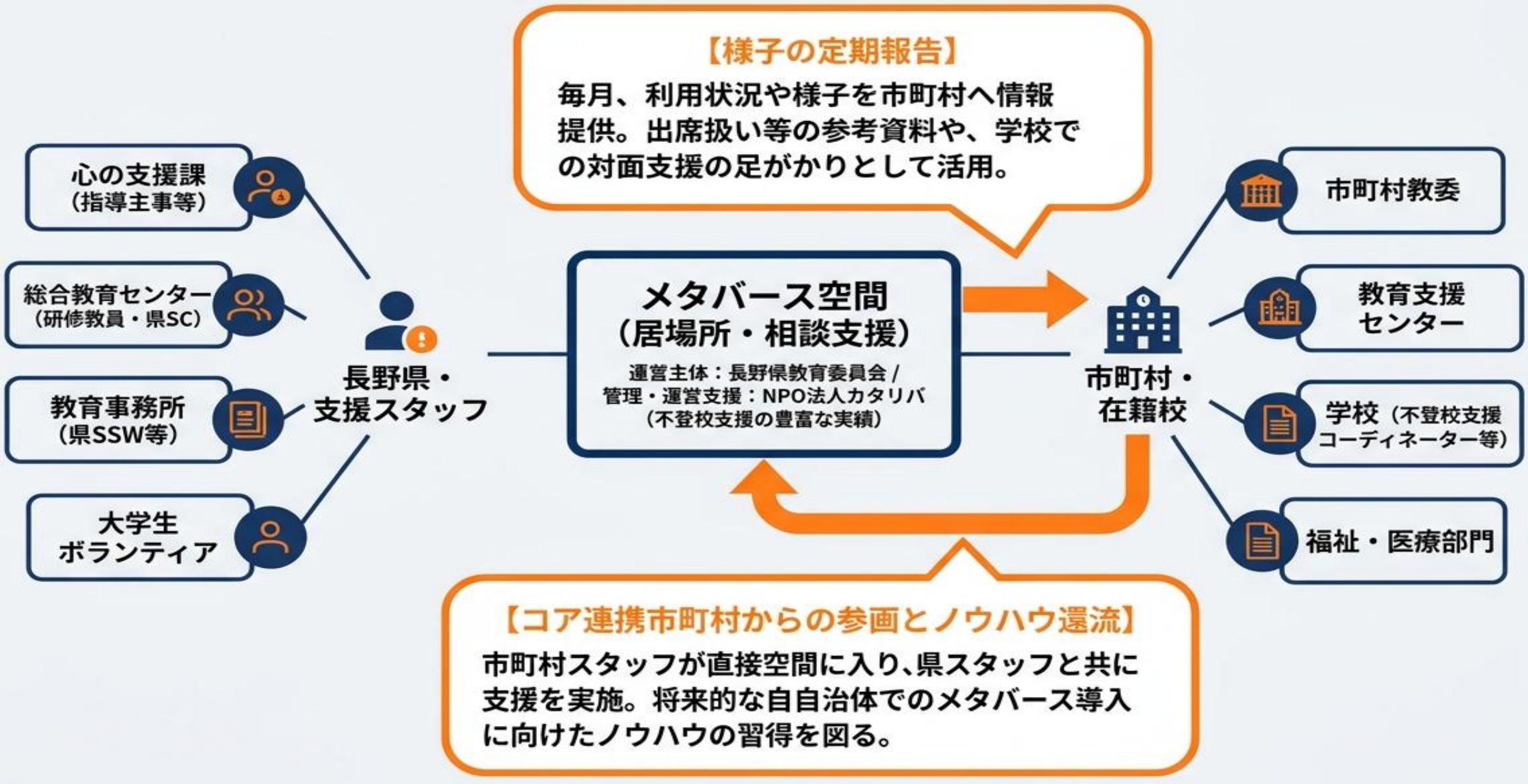
空間内での様子を市町村へ定期報告。オンラインでの関係性をきっかけに、段階的に市町村・学校等における『対面支援』へと繋ぐ。

安心して人と関われる「居場所」と「相談」の機会を提供

オンラインゲーム、イベントプログラム、チャット交流、個別面談を通じ、自尊感情、自己肯定感を育む

費用無料／個人の端末を使用／通信料は利用者負担

実施体制と連携構造：市町村へのノウハウ伝達モデル



児童生徒・保護者

・保護者が県へ利用申請し、自宅等からアクセス
・端末やwi-fiがない場合には、市町村が支援

市町村・在籍校

・アクション：支援を必要とする児童生徒に対する空間への誘い
・フィードバック：県から毎月「利用状況の情報提供」を受領し、出席扱いの参考等に活用

コア連携市町村の参画状況と今後のスケジュール

5/15の事業説明会には54市町村が参加。現在、以下の自治体が「コア連携市町村」としてスタッフ派遣を予定（令和11年3月までを予定）。

A市	B町	C村
相談機関や学校等との対面支援への接続手法と、メタバース空間構築のノウハウを学ぶ。	どこからでも他者と関われる環境を準備し、その後の学びや対面支援へつなげるきっかけとする。	引きこもりがちな生徒の多様なニーズに応じた受け皿の確保。他自治体スタッフとの密な連携を図る。

＋ 他の市町村も調整中

5月中旬（済） 現在地
事業説明会・
コア連携市町村募集開始

7月頃
メタバース空間での支援の
試行開始
（支援スタッフ講習会等）

8月
事業実施の正式アナウンス、
関係機関（SC/SSW等）への
周知、運用マニュアル確認

9月中旬～下旬
開室日：月・水・金
（午前2時間・午後1時間程度を予定）
児童生徒向けの
メタバース支援本格開始

長野県 メタバースを活用した
不登校支援事業

カラフル★スペースS
@NAGANO（仮）



○ 長野県における不登校支援の新たな枠組みの構築に向けて

【背景】第3次教育振興計画の終了、「はばたき」による補完、国のCOCOLOプランの提示
これらを踏まえ、従来の行動指針の改定・延長ではなく「これからの支援の在り方」を再構築する必要がある

不登校未然防止および不登校児童生徒への支援のための行動指針（平成30年）
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/shido/documents/futoko_shishin.pdf

長野県・不登校支援の新たな方向性：「行動指針」から「新たな支援の枠組み」への転換

【背景と転換】従来の「指針」から「新しい枠組み」へ



既存の「行動指針」はその役割を終了

現在の国の大型施策や県の最新実践にその役割を譲ります。



単なる「改訂」ではなく「ゼロベースの再構築」へ

過去の資産を継承しつつ、現在の法整備に合わせた全く新しい支援の形を定義します。



国の「COCOLOプラン」との整合性を重視

多様性と包摂を掲げる国の方向性に基づき、理念を重視した設計を目指します。

【核心的な論点】支援の「当たり前」をどう変えるか

目的を「学校復帰」から「Well-being」へ



ゴールを学校に戻ること。



ゴールを本人の心身の安定や社会的自立に置き換えます。

当事者を「支援される側」から「支援の主体」へ



子どもを単なる支援対象。



自己決定を尊重し、共に創り上げる存在と位置づけます。

学校中心から「多様な学びのネットワーク」へ



学校中心
（学校に関わる児童生徒）



多様な学びのネットワーク
（学校外や孤立している子どもを含む）
民間団体やオンライン、家庭など、学校外の場も含めた分散型の支援体制を構築します。

「@心の支援課」では、心の支援課生徒指導係から、いじめ対策・不登校支援に関わる取組を紹介します。　（発行）R８.3.19



@心の支援課

長野県教育委員会事務局 心の支援課
長野市大字南長野字幅下692-2
電話番号：026-235-7436

特集

校内教育支援センターの運用のために

校内教育支援センターは、登校はできるものの、教室に入ることが難しい子どもを対象とした場所です。安心して過ごすことができる**居場所機能**、自分のペースで学ぶことができる**学習機能**、教員等に自分の思いや気持ちを相談できる**相談機能**の３つを一体的に備えた学校内の支援拠点として、子どもの「学びの継続の保障」と「安心できる学校とのつながりの確保」を実現していくことが期待されています。

本紙では、各学校に設置されている校内教育支援センターで行われている、運営面や設備面での工夫や、そこで重視されている視点等についてご紹介いたします。



▶ 運営面での工夫

＜小中共通＞

- 校内教育支援センターの運用について、配置支援員や担当職員と擦り合わせ、子どもへの支援体制について、年度当初に保護者へ丁寧に伝えるようにしている。
- 校内支援センターを利用する場合には、保護者と本人との面談の中で、どのように過ごしたいのか等の思いや願いを聞いた上で、一定期間の見通しをもちながら利用してもらうようにしている。
- コミュニティスクールの方や地域の方に支援や活動に協力していただく場面をつくっている。

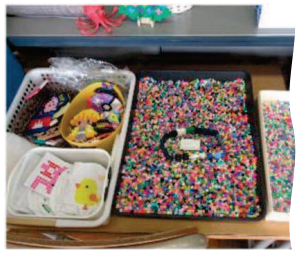
＜小学校の例＞

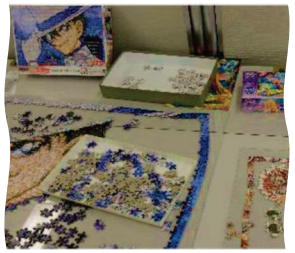
- 職員間で分担することで、子どもだけで過ごすことがないようにしている。保護者が付き添える時間帯には一緒にいていただく場合もある。
- 支援員の退勤時間以降は管理職が対応している。
- 時間割に担当職員をシフトとして組み込んで、見守りの仕組みづくりを進めている。

＜中学校の例＞

- 一日2時間は教科担任が授業を実施できるよう、時間割のスライドに教科の職員を組み込んでいる。
- 学級の授業へオンライン参加できる場所にもなるよう、学習環境を整えている。
- 校長から、認め励ます声掛けを行うことの大切さを職員へ伝えている。観点別評価や５段階評定にも反映できる部分がないか検討を進めている。
- 進路情報などもわかりやすく掲示している。
- 小学校と連携し、不登校傾向にある6年生を対象とした案内や見学体験などを実施している。

▶ 居場所機能の充実　～子どもの安心を助ける様々なもの～







多くの校内教育支援センターは、ジグソーパズル、カードゲーム、ぬいぐるみやアイロンビーズなど、子どもが何気なく触れられる教材や、取り組める素材などが用意されています。共通しているのは、自由に扱える素材と、途中でやめてもまた続けられる素材、達成感が得られるような素材です。また、並んで作業するなど、自然とコミュニケーションが生まれるような素材も用意されています。

● 視点

- 自由度の高いビーズや、手順が明確なパズルなどをそろえ、触る・並べる・つまむなどの動作で落ち着けるよう、その時の状態に応じた過ごし方を自分で選択できるようにしていく
- 途中でやめたり、再開したり、少しの作業でも“できた”が得られる教材を用意しておく
- 子どもの好みや年齢に合う色やキャラクター、楽しそうに見えるデザインを取り入れ、自然と手に取りたくなる環境を整えていく

▶ 学習機能の充実　～自分のペースで、学びたいように学べるように～







校内教育支援センターでの学びの場は多様です。教科書等を活用した教科学習や、興味・関心に基づいた探究的な学びなど、滞在する子どもの希望に合わせて、柔軟な工夫がなされています。大部屋の中心に小さな空間を区画し、１日２時間は先生が教科指導に入る工夫をしたり、パーテーションなどで個別に集中して学習できる環境を整えています。なお、学習の場所は整備しつつも、子どもが取り組みやすい場所や方法を柔軟に実現していくことが、学習環境の整備ではとても重要です。

● 視点

- 固定的な枠組みではなく、子どもの状態や希望に応じて柔軟に調整していく
- 子どもの自己決定を尊重し、様々な選択肢を提示する
- 登校が難しい状況でも、子どもは「学びたい」という気持ちを内にもっているということを大切にする
- 授業参加、個別課題、オンライン学習、興味関心に基づく活動など、あらゆる学びがその子の成長にとって重要なことであるということを大切にしていく

▶ 相談機能の充実　～安心できて、相談できる場所として～





室内には、ソファや丸テーブルが配置され、和やかで安心できる雰囲気がつくられています。また、ぬいぐるみやパズルなどを用意したり、横になって過ごせるような工夫がなされています。さらに、相談員の先生などに相談をしたり、読書やお絵描き、制作活動、軽い運動など、子どもたちの幅広い活動が保障されるような環境づくりが進められています。教室を複数確保できない場合でも、旧パソコン室などをパーテーションなどで区切って、テーブルやクッションを置くなどして、落ち着いて過ごせる環境を整えています。

● 視点
- 子どもが「ここなら大丈夫」と感じられる空間を整えていく。
- 「学び」や「人」とつなぐために、子どもの心理的な安全性が確保されているかを見取っていく
- 柔らかい素材の家具やクッションを配置し、居心地のよい空間づくりを進めていく
- 半透明パーテーションなどを活用し、オープンな中にもプライベート感を演出できるようにしていく

▶ 設備面での工夫　～校舎へ入るまでの抵抗感を取り除くために～





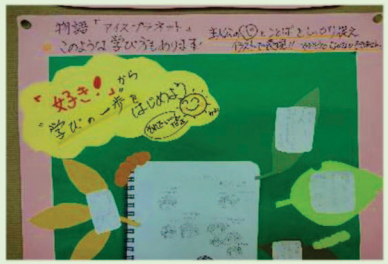
他の子どもとの動線に配慮し、通常の昇降口とは異なる出入口を設けるなどの工夫をしている学校もあります。また、登校時間が分かっている場合には、職員が玄関付近まで迎えに出るなど、きめ細やかな応対が行われています。特別な動線や出入口の整備は、少しでも登校がしやすくなる工夫のひとつですが、一人ひとりの状況や気持ちを丁寧に確認しながら、その子にあった支援の在り方を検討していくことが重要です。

● 視点
- 一人一人の希望や不安を把握し、子ども自身が選択できる状況を整える
- 「来てくれてうれしい」という肯定的な声掛けなど、受容の姿勢を大切にしていく
- 必要に応じて、校舎に入る前にクールダウンの時間・スペースを用意し、子どもの気持ちと丁寧に向き合っていく

▶ 支援の工夫　～子どもと一緒に考えながら～


1.月暦、週暦、日報の掲示


2. 個別の取組履歴を蓄積して様子を把握



3.読解教材で得意なイラストを活かす



4.進路相談を掲示して個別相談


5.好きなことに取組んだ成果を認める


6.各教室の時間割


7.お茶をたてて心落ち着ける時間に

小学校・中学校ともに、校内の各教室の時間割や、週予定などが掲示されていました。とくに学年で行事などがある場合には、関連した資料や予定表などが掲示されていました。学校での一日の流れが見渡せるような工夫もみられました。また、子どもの取組みの様子や課程が見えるように、ファイルやノートを活用して取り組んだ内容が、職員間で共有できるようにしている学校もありました。



多くの校内教育支援センターでは、限られた環境の中で子ども一人ひとりに寄り添うための細やかな工夫がなされ、学校全体で支えようとする姿勢がみられました。

関係職員の連携や保護者との対話、個々の思いを丁寧に受け止めながら支援の形を柔軟に変えていく日々の取り組みは、子どもたちの歩みに静かに寄り添い、安心して過ごせる居場所づくりの実現に貢献しています。

さまざまな課題に真摯に向き合いながら、子どもたちのためにできることを一つずつ積み重ねていく学校の取組みは、大きな意味を持っています。これからの一層のな工夫が、子どもたちの確かな成長へつながっていくことを願っています。

長野県教育委員会事務局 心の支援課
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kokoro/shido/ijime/manabinokeizokushienn.html